

7月



茨城県竜神川のダム湖



群馬県猿ヶ京から見る赤谷川



あの日のあの川 リレー日記 ～第18話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第18話主人公 齊藤優生

(筑波大学理工学群工学システム学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県江戸川)

「川を飛ぶ」

いつのこと？： 大学生

どこの川？： 竜神川、赤谷川、利根川

ゼミに入って早3ヶ月。「あの日あの川」とは何ぞやという状況であれよあれよという間に担当になった。「川の何気ないことを書けばいいんだよ」というようなアドバイスをいただいたものの、私は文章を書くのが苦手なので上手く伝えられるか不安が募っている現状である。

川の思い出なんてそんな大層なものはないと思っていたが、こうして何を書こうか記憶をたどってみると幼少期から今まで、小さな思い出が沢山蘇ってきた。記憶に残るか残らないかくらい幼い時の川での魚釣りや、電車に乗るたびに渡る近所の汚くて大きい川、旅行中に迷子になった時に友人と偶然見つけて涼んだ川。自分が思っていた以上に川の思い出はあった。その中でも今回はある3つの川の思い出を記そうと思う。

突然だが、私には大学生になってからハマったことがある。バンジージャンプだ。きっかけは2つある。1つ目は茨城県の竜神大吊橋のバンジージャンプだ。折角茨城に住んでいるのだからと勢いで友人たちと行った。

2つ目はマンネリ化してきた（よく言えば安定してきた）大学生活に何か刺激が欲しいと思ったことだ。

1回目に飛んだ竜神大吊橋は竜神川をせき止める竜神ダムのダム湖に架かる橋だ。全長 375m、高さは約 100mもある。これは吊り橋としては本州最長で、バンジージャンプの高さとしては日本一だ。100mの高さからダム湖を見下ろすとそれは真っ黒で、風で水面が揺れなければ水なのかコンクリートなのかも分からないようで、吸い込まれてしまいそうだった。

2回目は群馬県にある猿ヶ京というところだった。ここは赤谷川という川に架かる真っ赤な橋が印象的だった。紅葉で赤や黄色に染まった木々と真っ赤な橋、そしてエメラルドグリーンの川。“飛ぶ”ことだけでなく景色も楽しむことができる、そんな場所だった。

そして 3 回目は前回と同じく群馬県であったが、今度はみなかみという場所だ。利根川にかかる諏訪峡大橋から飛んだ。普段目にする茨城県と千葉県の県境の利根川と違って上流の利根川の水は澄んでいて同じ川とは思えないほどだった。河川敷などはなく、大きな岩がゴロゴロと転がっており、川の水がその隙間を縫うように飛沫をあげながら流れていた。水量は決して多くはなく川の流れもそこまで速いわけでもない。しかし岩に当たって砕ける水しぶきを見ていると、自然のパワーを感じると同時にそのパワーに飲み込まれてしまいそうなそんなちょっとした恐怖にも似た感覚を抱いた。

「5・4・3・2・1・バンジー！」

掛け声とともに誰に背中を押されるでもなく自分の意思で前へ飛び出した。足を踏み出せば当たり前のように地面がある、そんな日常から、足を踏み出しても何もない、非日常へ飛び込んだ瞬間だった。物凄い速さで近づいてくる水面。耳を切る風の音。目から耳から入ってくる自然の“圧”で叫び声など出なかった。川の中の生き物を狙って急降下する鳥はきっとこんな感覚なのだろうと、落ちていく瞬間に漠然と感じた。



日本にはとても多くの川がある。そしてそれぞれの川が四季折々のそれぞれの表情を見せてくれる。綺麗な川、汚い川、大きい川、小さい川、一体いくつの川があるのだろうか。どんなに多くの川があっても一生の中で私の記憶にとどまる川は僅かだろう。記憶にとどまらないほど当たり前身近にある川は私の日常の一部であるが、私がしたバンジージャンプや、その他にも様々なレジャーを作り出す川は非日常でもある。そんな二面性を持つ川を通して日常と非日常をこれからも感じ、刺激を受け続けていきたい。

（次は平尾真菜さんにバトンを託します）